



富 20 都政発第 9 7 号  
平成 20 年 10 月 17 日

国土交通省道路局長 様

富士吉田市長 堀内 茂



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

平成 20 年 9 月 19 日付け国道企第 37 号で依頼のありましたこのことについて、別紙のとおり提出します。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ①

① 道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

山梨県 富士吉田市

道路行政全般に関する要望として、道路財源に対する抑制的な意見が強まる中、地方都市においては、公共交通機関の整備が遅れている現状では、車社会からの脱却は、一朝一夕に果たせるものではなく、まだまだ道路整備は必要な状況である。このような現状を踏まえた上で、それぞれの地域の抱える特性的な課題に対して、理解ある対応をお願いしたい。

②-1 地域の現状と抱える課題

山梨県 富士吉田市

○現状

- ① 富士北麓地域の拠点都市である富士吉田市は、中央自動車道富士吉田線・東富士五湖道路・国道 137・138・139 号の 5 路線の広域幹線道路の集中する道路交通の要衝にある。
- ② 富士北麓地域の広域観光地として、各国道においては周辺市町村からの車両の流入・流出が激しく、交通混雑が慢性化している状況が見られる。
- ③ 近年、富士山火山災害や大規模地震災害の発生時における防災対策の必要性が叫ばれており、緊急避難路として道路が果たすべき役割が重要視されている。
- ④ 富士吉田市においては、平成 20 年度末を目途に、市全域の道路網の整備計画となる「富士吉田市道路整備計画」を策定するよていであり、今後の短期・中期・長期の具体的な整備計画とし、道路整備を推進していく。

○課題

- ① 富士吉田市の幹線道路に関しては、周辺市町村からの車両の流入・流出により、朝夕の通勤通学時の交通混雑が慢性化し、市民生活への影響も大きい。また、富士北麓地域の広域観光地の中心部に位置するという地理的条件から、夏季観光シーズンには終日にわたる交通渋滞が見られ、各国道の交通混雑区間の拡幅整備やバイパス機能を持つ道路の整備が大きな課題となっている。
- ② 南部に富士山、周囲を山で囲まれた市街地という地形にある富士吉田市は、富士山火山災害を想定した地域防災の観点から、周辺地域への緊急避難路の確保が重要な課題であり、国・県との連携の中で、甲府方面へのトンネル・バイパスの建設、山中湖方面への国道の拡幅四車線化、都留方面への県道バイパスの建設、市街地北部への中央道スマート I C の設置など重点的な道路整備の計画を進めている状況であり、平成 20 年度末に策定する「道路整備計画」での新たな市道の整備を含めて、市の財政状況が逼迫する状況の中、計画的な事業推進が図れるかが課題である。

### 《富士吉田市の道路行政の将来像》

富士北麓地域の拠点都市として、他圏域や周辺市町村と結ぶ広域幹線道路の整備、交通結節点の整備を促進していく必要がある。また、行楽シーズンや朝夕のピーク時の交通混雑を解消するため、既存幹線道路の水準向上と新規幹線道路の整備を促進する必要がある。富士吉田市の道路行政の将来像としては、現状の幾つかの課題を踏まえて、次のような対応を進め、道路交通網を整備することを計画している。

#### 1. 自動車専用道路

首都圏、大月・都留方面からのアクセスを向上し、富士北麓地域の広域観光活性化につながる市北部へのスマート I C の設置、国道 138 号及び 139 号の交通混雑を緩和し、新屋地区の観光活性化エリアへの観光客誘致につながる市南東部への東富士五湖道路新規 I C の新設を促進するとともに、I C との連絡を向上するアクセス道路の整備を促進する。さらに、自動車専用道路に、富士山の眺望を生かした休憩・交流スペースとなるハイウェイオアシスの整備を検討する。また、県中西部都市生活圏域と富士北麓・東部都市生活圏域の連絡強化を目的とする甲府富士北麓連絡道路を地域高規格道路として整備することを促進する。

#### 2. 広域幹線道路

東西の都市間交通を担う国道 139 号及び 138 号については、広域観光の玄関口である河口湖 I C と富士北麓地域のアクセス性向上の観点から、未拡幅区間の早期四車線化整備を促進することにより、行楽シーズンを中心に頻発している交通渋滞の抑制を図る。本市と大月・都留方面を結ぶ唯一の国道である国道 139 号、本市と河口湖方面を結ぶ国道 137 号の拡幅整備を促進し、交通渋滞の解消を図るとともに、富士山火山防災や大規模災害防災の観点から、避難・救援路を確保するため、新たな補助幹線道路として重要度が増している県道富士吉田西桂線や河口湖Ⅱ期バイパス（新倉トンネル）・市道新倉南線の整備を、国・県との協力の下、整備を推進する。本市と忍野・山中湖方面を結ぶ 1 市 2 村道路の延伸整備を促進する。

#### 3. 都市幹線道路

市北部に整備が検討されている中央自動車道スマート I C 及び県道富士吉田西桂線と東部地域を結ぶ市道大明見下の水線の整備を進めるとともに、市南部の東富士五湖道路沿線に整備を進めている東富士 1 号線の整備を進め、自動車専用道路と市街地へのアクセスの向上を図る。また、環境科学研究所、諏訪ノ森公園（富士パインズパーク）、新屋地区の観光活性化エリアなどの広域交流拠点を結ぶ（仮称）南部東西幹線 1 号については、周辺の自然環境との調和を保ちながら、整備を促進する。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

③ 道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

山梨県 富士吉田市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
<p>① 自動車専用道路の整備</p>	<p>市北部への中央自動車道スマート I C の設置</p> <p>新屋地区へのハイウェイオアシス、スマート I C の設置</p>	<p>地域活性化（企業誘致・観光振興・市民生活の利便性の向上）、災害時の緊急避難路の確保</p> <p>地域活性化（企業誘致・観光振興・市民生活の利便性の向上）、災害時の緊急避難路の確保</p>	<p>富士吉田市の地域的特性として、富士山火山防災への対応として計画されている防災計画の中で、緊急避難路の確保が非常に重要な課題となっている。</p>
<p>② 広域幹線道路の整備</p>	<p>国道 138 号の四車線化</p> <p>県道富士吉田西桂線の整備</p> <p>河口湖Ⅱ期バイパス（新倉トンネル）・市道新倉南線の整備</p>	<p>行楽シーズン・朝夕の慢性的交通渋滞の解消</p> <p>国道 139 号の行楽シーズン・朝夕の慢性的交通混雑の解消に向けたバイパス機能道路の確保</p> <p>国道 137 号の交通混雑の解消、甲府方面へのアクセス向上、災害時の緊急避難路の確保</p>	
<p>③ 都市幹線道路の整備</p>	<p>市道大明見下の水線の整備</p> <p>（仮称）南部東西幹線 1 号の整備</p>	<p>市東部の交通分散（市民生活の利便性の向上）、I C へのアクセス向上</p> <p>市南部の交通分散（市民生活の利便性の向上）、国道 139 号の交通混雑解消</p>	